Ⅵ　少年自然の家

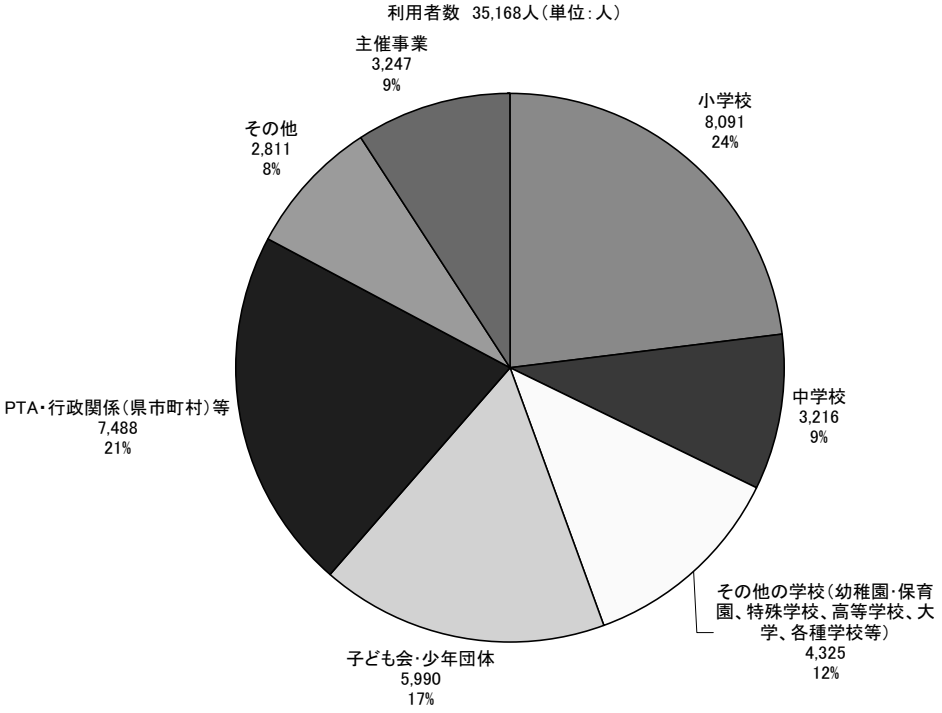
1　利用者の分析

(1) 対象別利用者数の分析

利用者を対象別にみると、利用者は小・中学校が高い割合を占める。この傾向は、3 施設ともに同様であり、設置目的を考慮すれば、当然の傾向といえる。

a　岩城少年自然の家

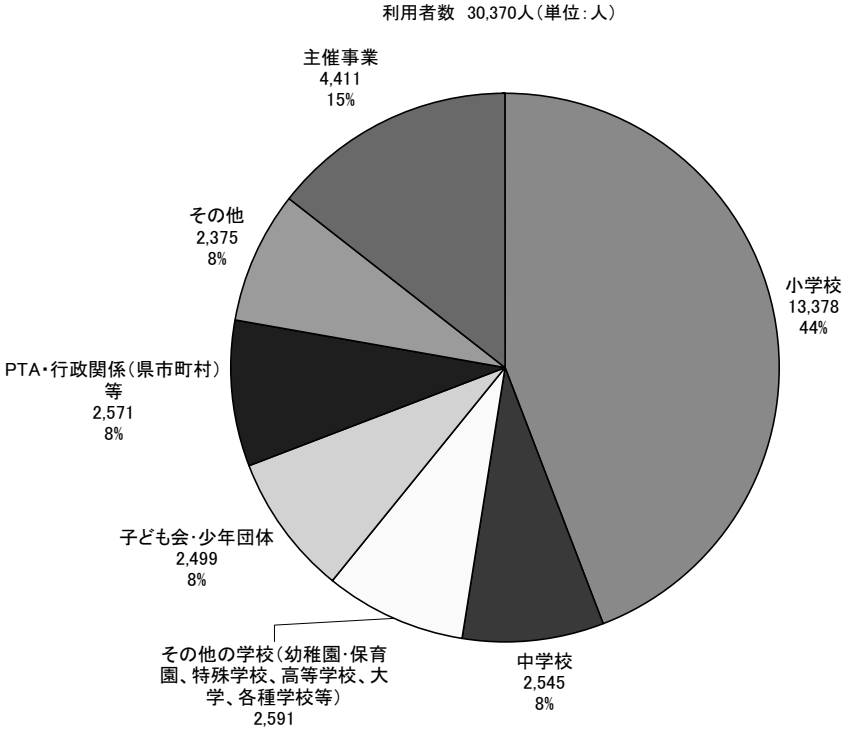
図 6-1　岩城少年自然の家の利用者数（平成 15 年度）



(注) 要覧のデータを一部加工して作成（以下、「(1) 対象別利用者数の分析」において同じ。）。

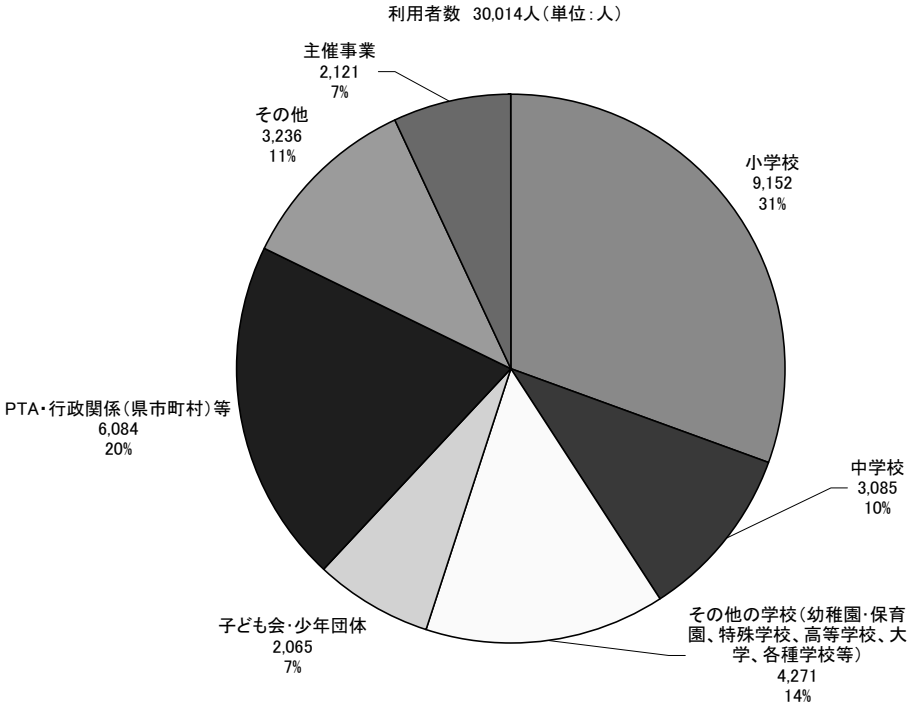
b　保呂羽山少年自然の家

図 6-2　保呂羽山少年自然の家の利用者数（平成 15 年度）



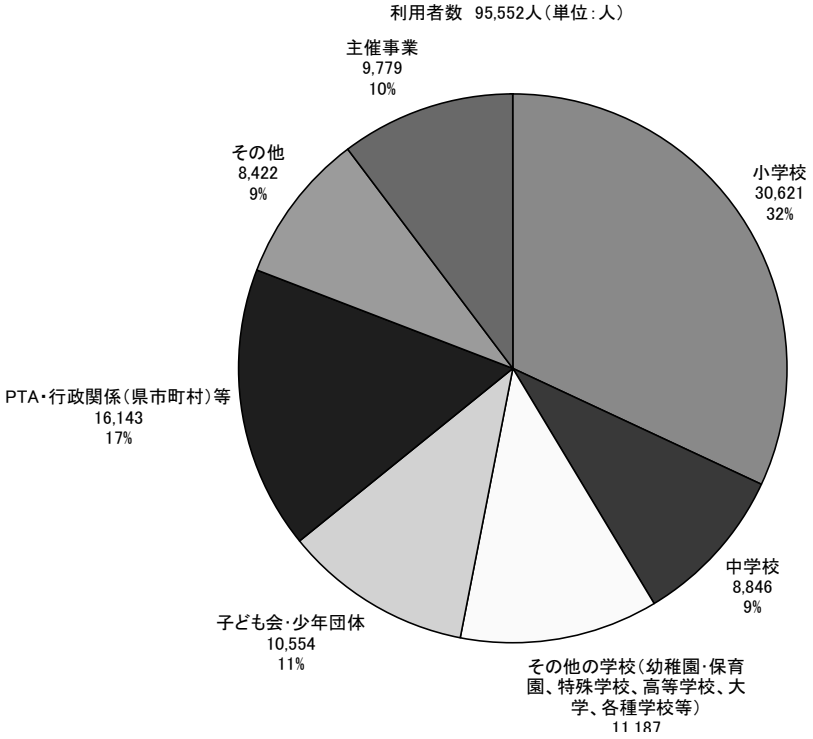
c　大館少年自然の家

図 6-3　大館少年自然の家の利用者数（平成 15 年度）



d　3 少年自然の家の合計

図 6-4　3 少年自然の家の合計の利用者数（平成 15 年度）



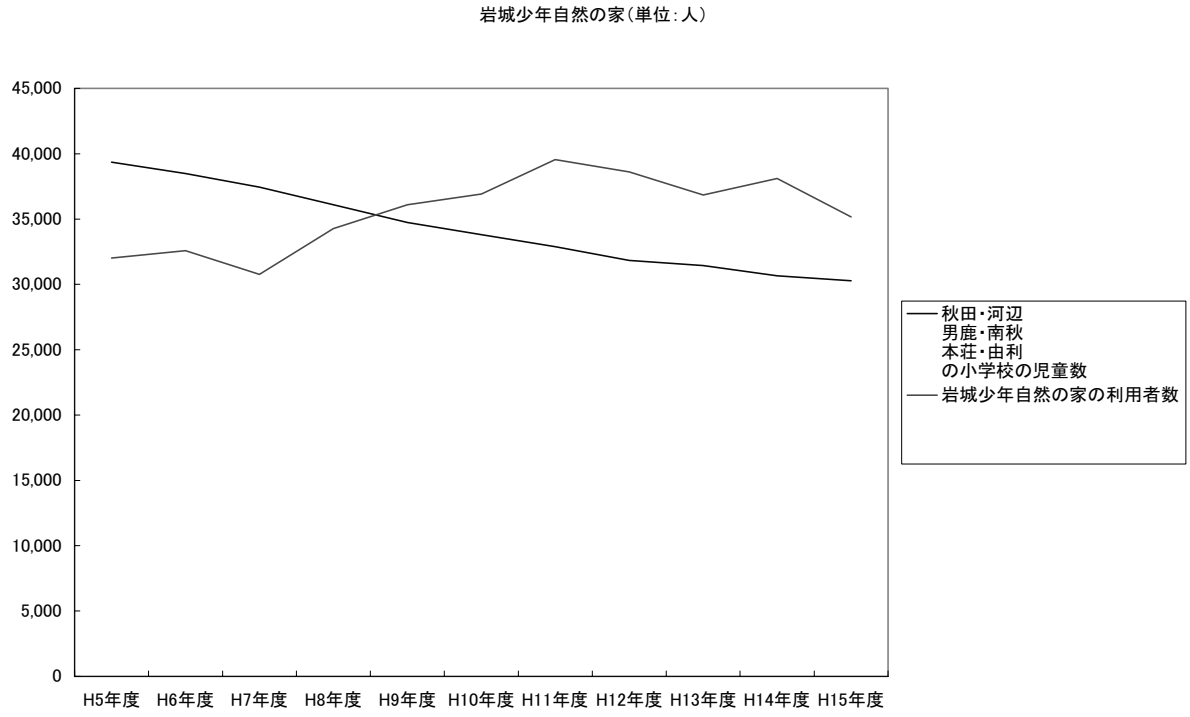
(2) 小学生の児童数と利用者数の分析

少年自然の家の利用者の 1 位は小学生であることから、各少年自然の家の利用対象地区の小学生の児童数の推移と利用者数の推移を比較してみた。

各少年自然の家で想定している小学生の対象地域について、岩城少年自然の家は秋田・河辺、男鹿・南秋、本荘・由利地区、保呂羽山少年自然の家は湯沢・雄勝、横手・平鹿、大曲・仙北地区、大館少年自然の家は鹿角・小坂、大館・北秋、能代・山本地区とのことであり、これにならった。

a　岩城少年自然の家

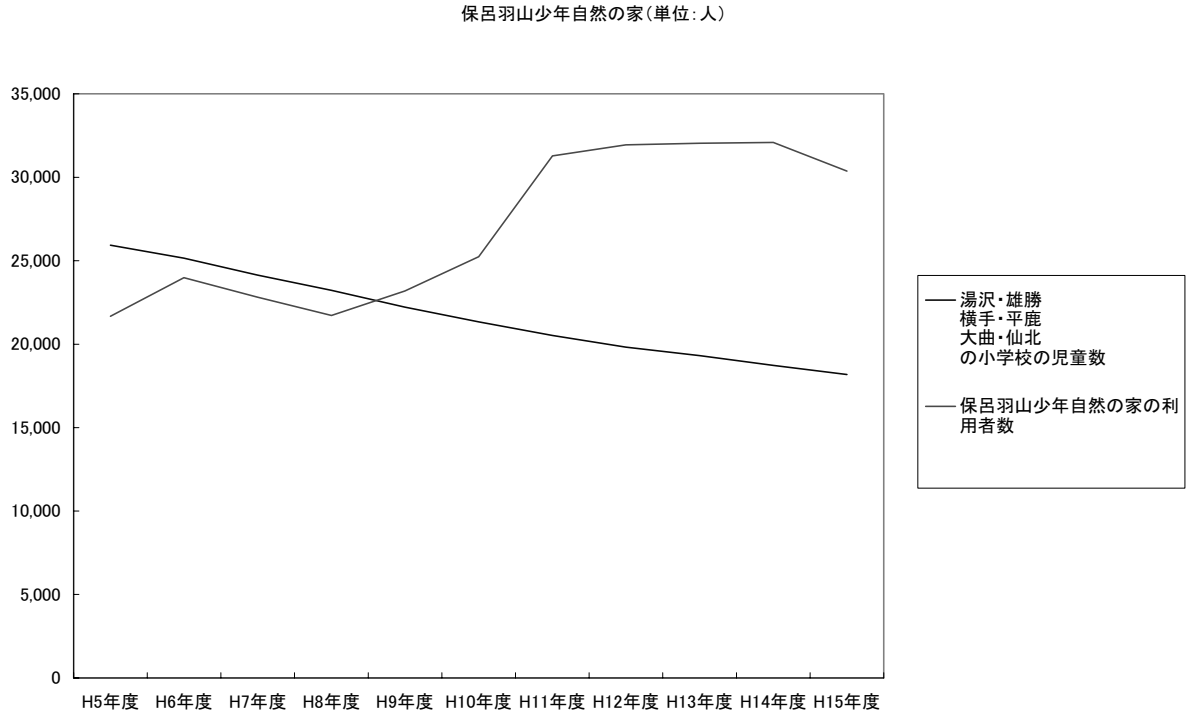
図 6-5　岩城少年自然の家の利用者数と小学校の児童数の推移



(注)少年自然の家作成資料を一部加工して作成（以下、「(2) 小学生の児童数と利用者数の分析」において同じ。）。

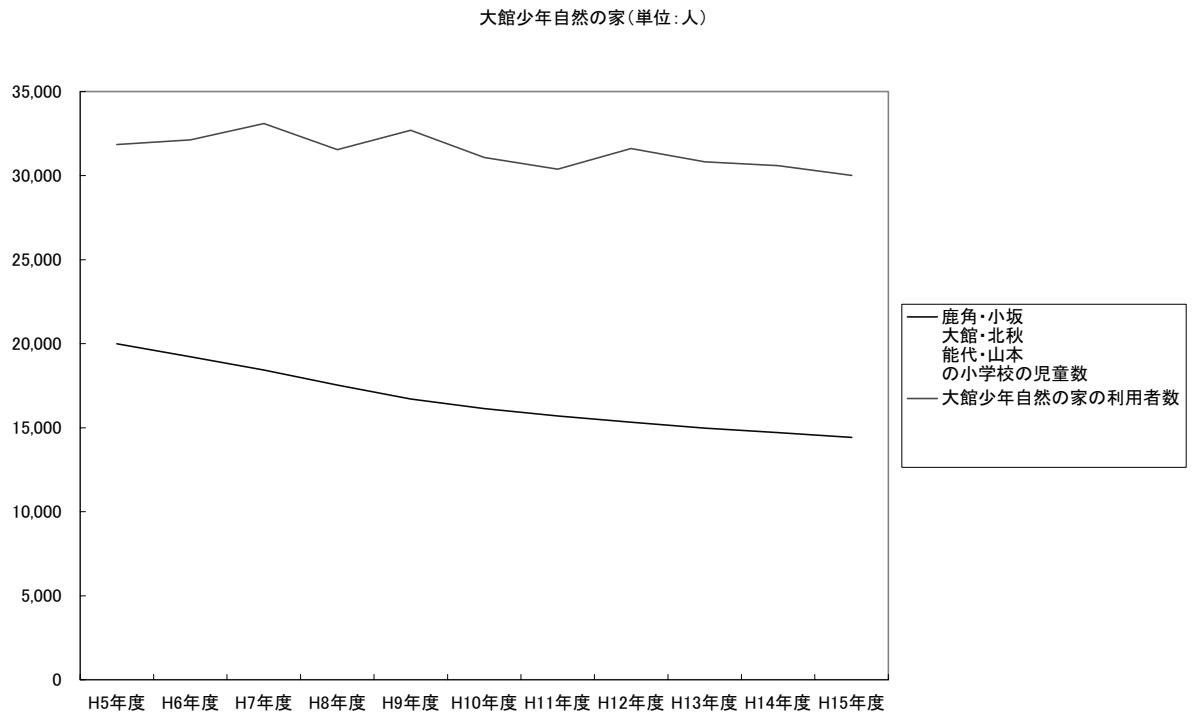
b　保呂羽山少年自然の家

図 6-6　保呂羽山少年自然の家の利用者数と小学校の児童数の推移



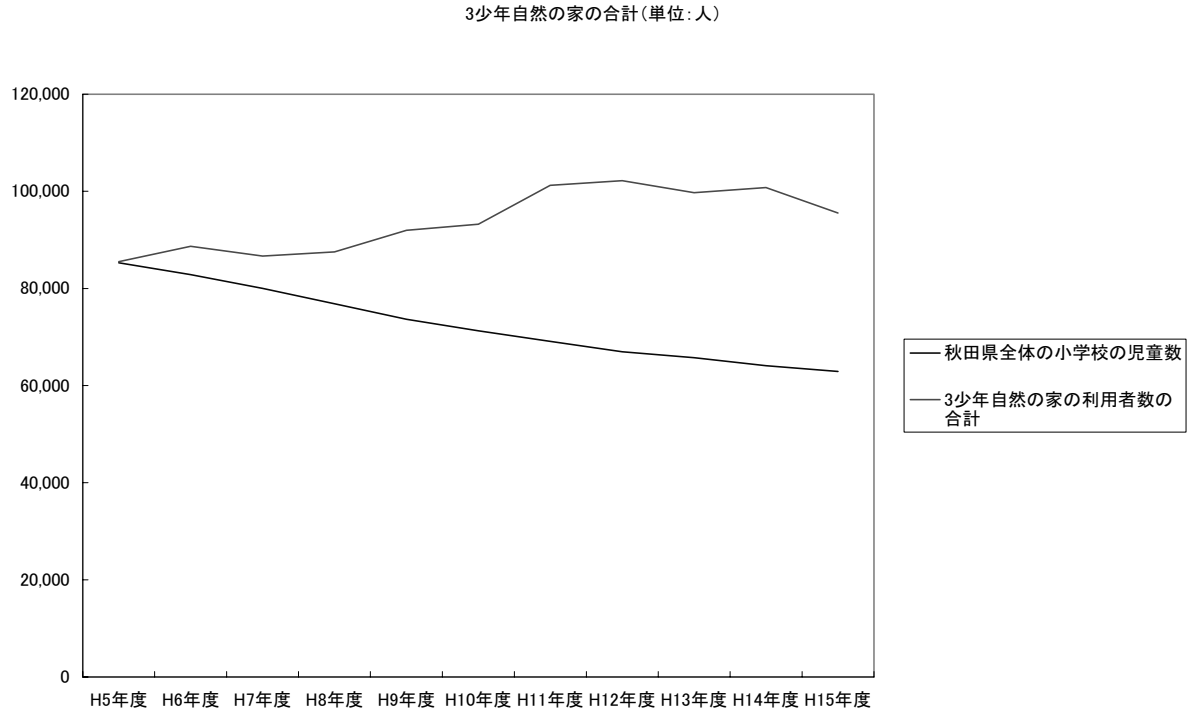
c　大館少年自然の家

図 6-7　大館少年自然の家の利用者数と小学校の児童数の推移



d　3 少年自然の家の合計

図 6-8　3 少年自然の家の合計の利用者数と小学校の児童数の推移



3 少年自然の家の合計で、利用者数と小学校の児童数の推移の趨勢をみると、少子化により児童数は減少しているが、利用者数は必ずしも減少しているわけではないことがわかる。

少年自然の家によると、学校の週 5 日制実施に伴い、授業時間数の確保のための学校行事の精選の結果、自然教室や宿泊研修等は宿泊日数を減じたり取りやめる傾向があり、少年自然の家の場合には、2 泊 3 日が減少し、1 泊 2 日や日帰りに移行する傾向にある。

一方、平成 11 年度より、あきたセカンドスクール推進事業が始まり、少年自然の家における活動を学校における教科の授業時数にカウントできるようになり、利用の増加要因もある。

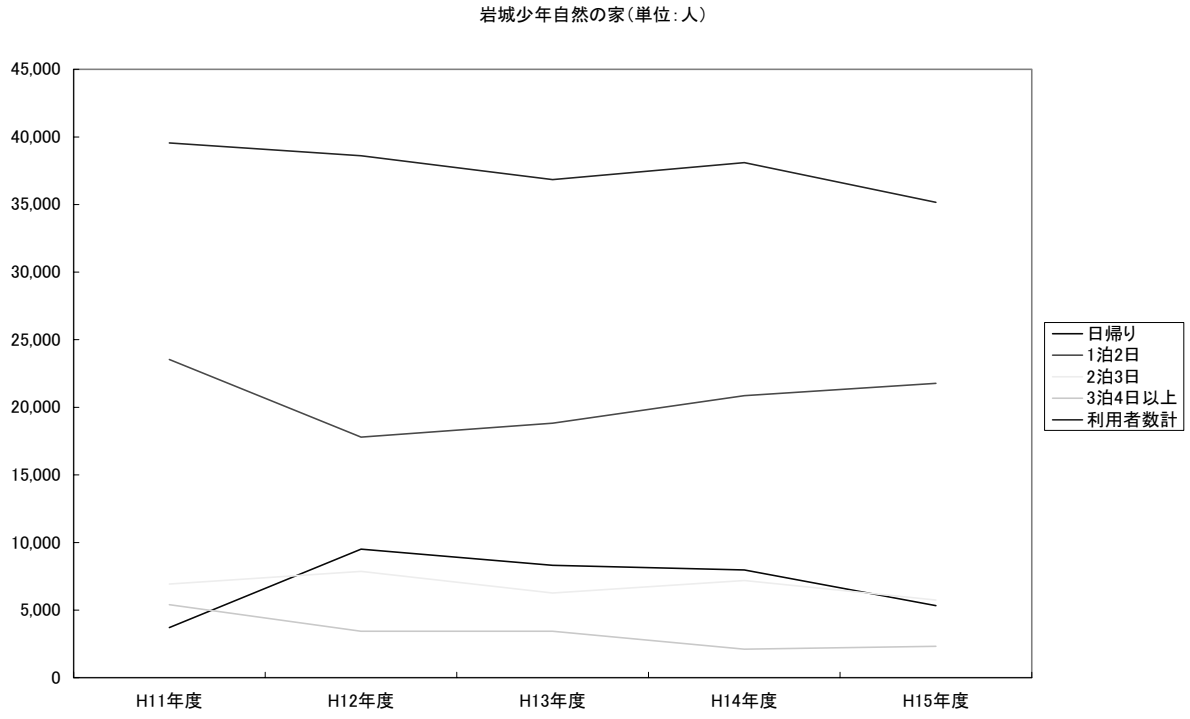
しかし、平成 15 年度では学校の週 5 日制の完全実施により利用者が減少したと考えられる。将来的には、少子化により、利用者の減少が予想され、予断を許さない状況にある。

(3) 利用日数の分析

3 少年自然の家の合計で、利用日数の趨勢をみると、2 泊 3 日や 3 泊 4 日以上が減少し、1 泊 2 日や日帰りが増加する傾向にあり、上記(2)の少年自然の家の説明と合致する。

a　岩城少年自然の家

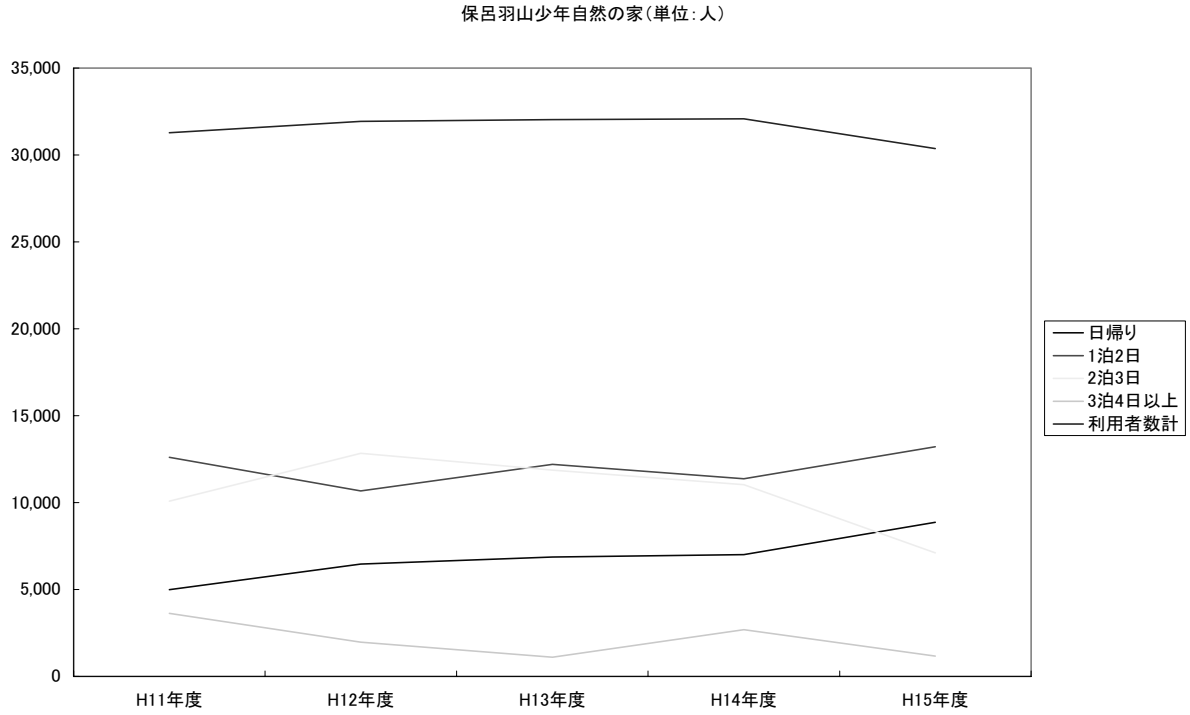
図 6-9　岩城少年自然の家の利用日数の推移



(注)少年自然の家作成資料を一部加工して作成（以下、「(3) 利用日数の分析」において同じ。）。

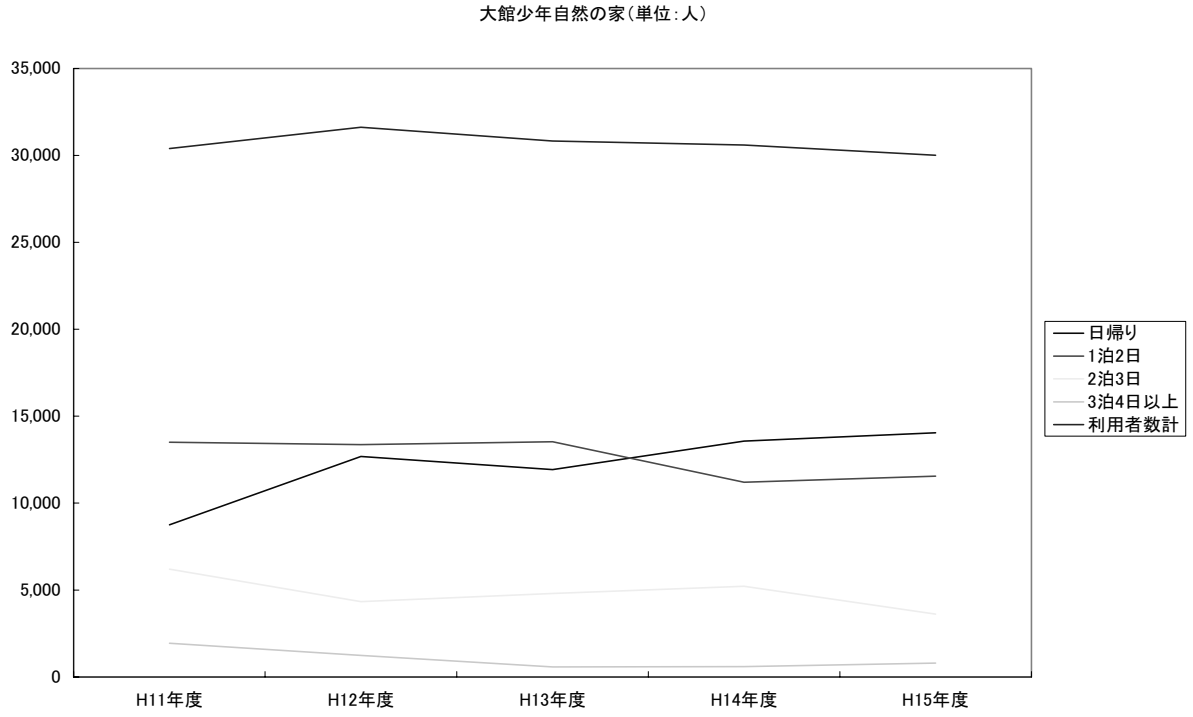
b　保呂羽山少年自然の家

図 6-10　保呂羽山少年自然の家の利用日数の推移



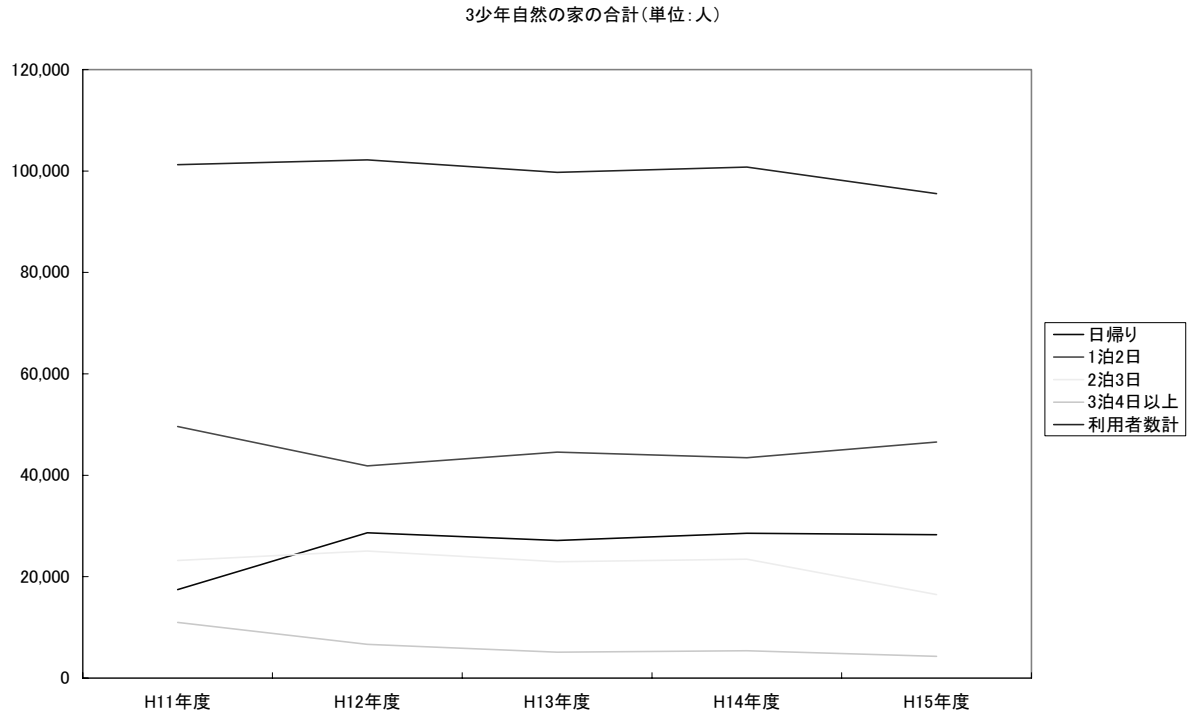
c　大館少年自然の家

図 6-11　大館少年自然の家の利用日数の推移



d　3 少年自然の家の合計

図 6-12　3 少年自然の家の合計の利用日数の推移



(4) 活動種目からの分析

各少年自然の家の活動種目の人気ランキング上位 10 位は、下記のとおりである。

a　岩城少年自然の家

表 6-1　岩城少年自然の家の活動種目の 人気ランキング上位 10 位

（単位：人）

順位	活動種目	利用人数（平成 16.4.1～6.30）（注）1
1	野外クッキング	2,454
2	ふれあいゲーム・プロジェクトアドベンチャー	1,531
3	ハイキング	1,347
4	自然物工作	879
5	キャンプファイヤー	841
6	地引き網	487
7	ネイチャー系ゲーム	484
8	救命救急講習	430
9	ザリガニ釣り	215
10	自然観察	212

（注）１．平成 15.4.1～平成 16.3.31 の期間では集計していないため、集計している期間（平成 16.4.1～6.30）について記載している。

（注）２．少年自然の家作成資料（以下、「(4) 活動種目からの分析」において同じ。）。

b　保呂羽山少年自然の家

表 6-2　保呂羽山少年自然の家の活動種目の人気ランキング上位 10 位

（単位：人）

順位	活動種目	利用人数（平成 15.4.1～平成 16.3.31）
1	キャンプ場（野外炊飯、キャンプファイヤー）	6,382
2	カヌー	4,715
3	プロジェクトアドベンチャー	4,043
4	ナイトハイク	4,033
5	登山	1,796
6	創作活動	1,464
7	星座観察	1,146
8	化石観察・採取	1,109
9	うどんつくり	797
10	楽焼き	497

c　大館少年自然の家

表 6-3　大館少年自然の家の活動種目の 人気ランキング上位 10 位

（単位：人）

順位	活動種目	利用人数（平成 15.4.1 ～平成 16.3.31）
1	野外炊飯	4,447
2	プロジェクトアドベンチャー	3,558
3	キャンプファイヤー	2,883
4	テント泊	1,910
5	フィールドワーク	1,865
6	長木川遊び	1,000
7	秋葉山登山	984
8	火起こし体験	786
9	鳳凰山登山	780
10	天体観望	650

平成 14 年度から導入したプロジェクト・アドベンチャー（PA）が各少年自然の家とも上位にランクインしており人気がある。プロジェクト・アドベンチャー（PA）とは、エレメント（体験器具）を利用することを通じて、自分自身に対する挑戦、仲間との協力、成功体験、達成感など人間の成長に欠くことのできない要素を身近に体験するために、米国で開発された体験学習プログラムである。

また、岩城少年自然の家では地引き網、保呂羽山少年自然の家ではカヌーや登山、大館少年自然の家では川遊び、登山といった活動種目がそれぞれランクインしており、各少年自然の家の立地の特徴を反映している。

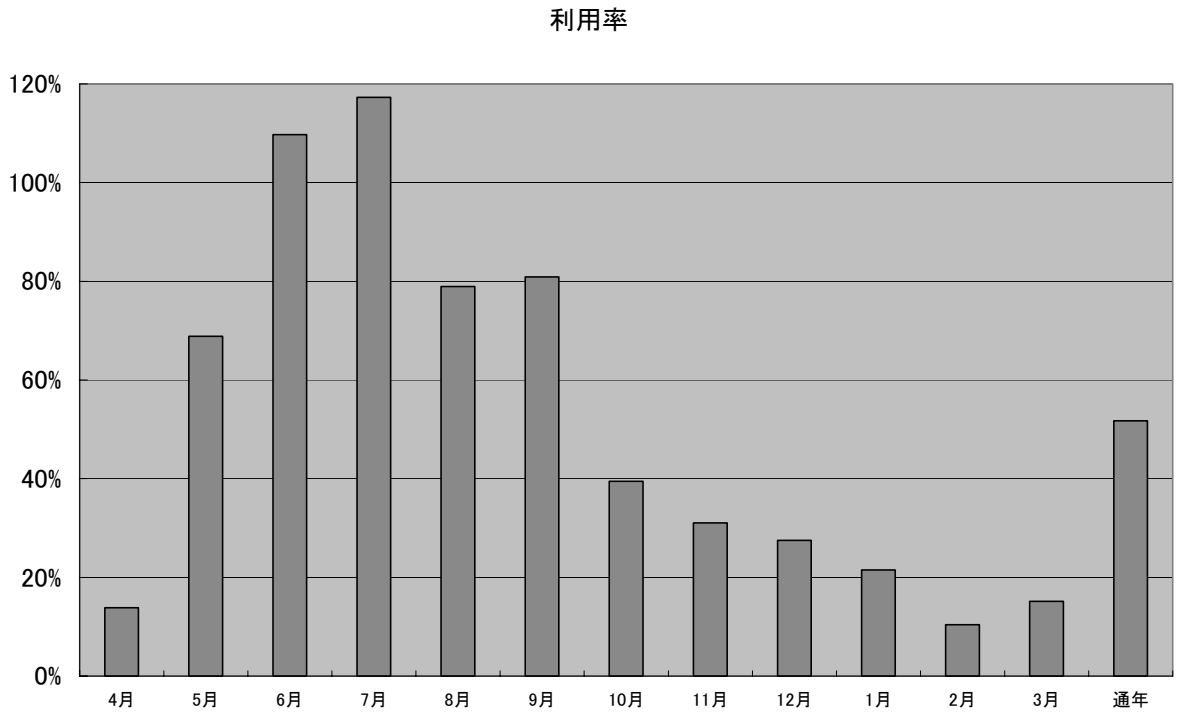
(5) 利用率の分析

3 少年自然の家の合計で利用率の趨勢をみると、6、7、9 月の利用率は 80%を超えているものの、11 月から 3 月の冬期間の利用率は 20%前後と低い。主な理由は、利用者の中心である小・中学校の学校行事の開催時期に影響を受けるためである。すなわち、多くの小・中学校では、少年自然の家を利用した学校行事が夏季に予定され、冬季は学芸会や受験指導等により少年自然の家を利用した学校行事の予定が少ない傾向にある。

夏季の利用率が高いものの、冬季の利用率が低いため、年間を通じた利用率は 3 少年自然の家の合計で 47.6%にとどまっている。

a　岩城少年自然の家

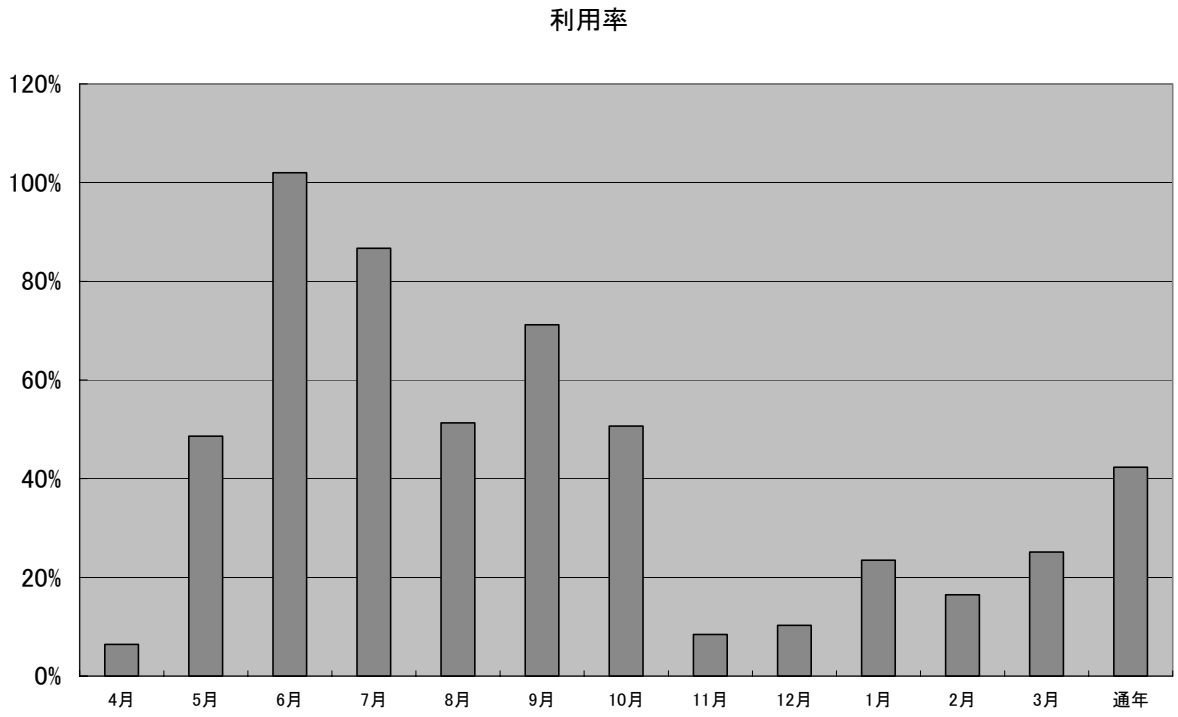
図 6-13　岩城少年自然の家の利用率（平成 15 年度）



（注）「監査資料」に基づき、一部加工して作成。利用率＝稼動可能日数×宿泊定員÷延人員。日帰り利用があるため、利用率が 100%を超える月が生じている（以下、「(5) 利用率の分析」において同じ。）。

b　保呂羽山少年自然の家

図 6-14　保呂羽山少年自然の家の利用率（平成 15 年度）



c　大館少年自然の家

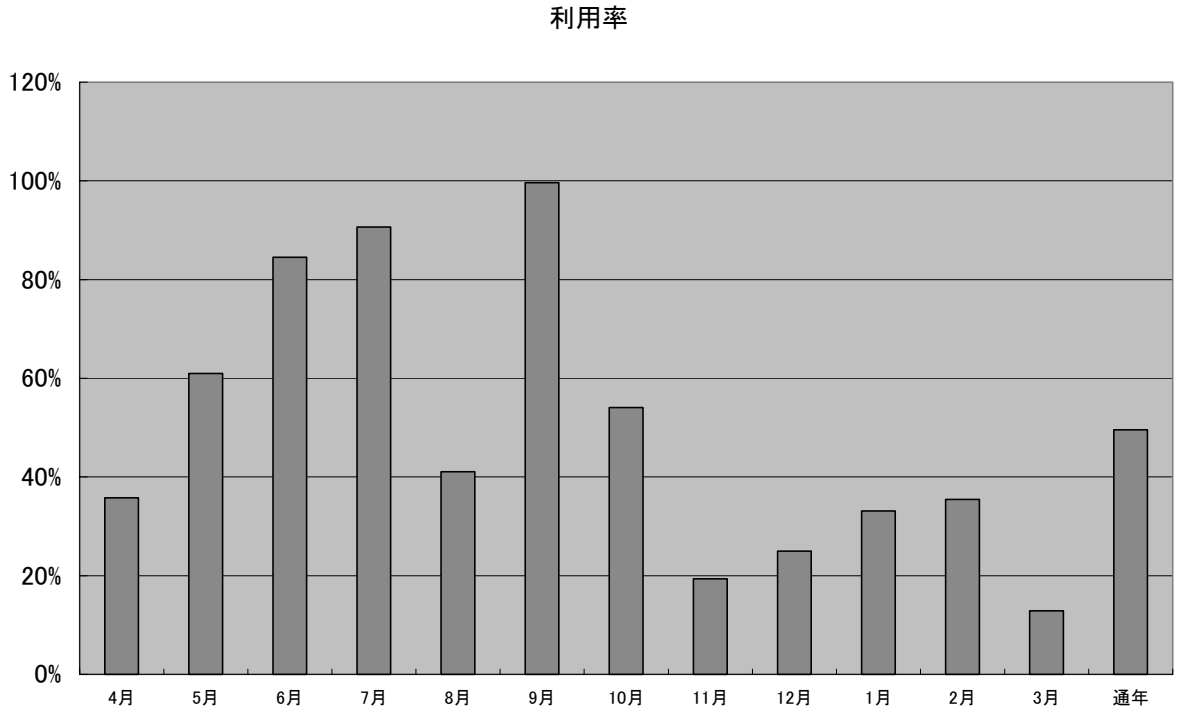



図 6-15　大館少年自然の家の利用率（平成 15 年度）